50年前の経験が今に活きる

創立時同人　榎本　英機氏

「偏宜上酒楼」。

この詩は石黒さんから頂いた二曲屏風に、筆墨も雄渾大胆な、張謂の五言律詩です。題は「同王徵君洞庭有懐」の六句目、“酒屋に上がって酒でものんだら・・・”。

思えばPES 事務所近くにも、多門亭、八雲などの酒楼があり時には、英気養いに（憂さ晴らし?）酒楼に上がった記憶が楽しく残っています。

他に甘党用は「万年堂の和菓子」「両口屋の銘菓、信濃路、オチコチ」など、こちらは家族への手土産で大変喜ばれました。上記酒楼は今も健在で、ウナギ、シャブシャブで大繁盛しています。何か元気な所はPES 同様です。

設計業務では多くの人に助けられました。藤設設設計の伊藤宜生氏、東海設計の伊井氏など、時代先端の設備技術及び設計業務の流れなどを得られた事も大いに助かりました。

私個人は、石黒氏から世界最先端技術をアメリカ事務所在籍経験などからの話を聞き、勉強する所が多くその後の人生にて、30 数年のゼネコン生活、又64才からの地元設備業者に在籍し、主に三重北勢地区、役所の設備更新計画、及び予算算出など無理なくできるのは、50年前のこの時代が有っての事と思って感謝しています。趣味では水墨画を10 年ほど楽しんでいますが、冒頭の二曲屏風の雄渾な筆跡が多々影響しているかと、我ながら驚くしだいです。

次は何周年記念ですか？

2022年8月16日

同王徵君湘中有懐

唐・張謂

八月洞庭秋，
瀟湘水北流。
還家萬里夢，
爲客五更愁。
不用開書帙，
偏宜上酒樓。
故人京洛滿，
何日復同遊。

王徵君ちょうくんの『湘中しゃうちゅうにて懐おもひ有り』に同どうず

八月　洞庭どうていの秋，
瀟湘せうしゃう　水北に流る。
家に還かへる　萬里の夢，
客かくと爲なる　五更の愁うれひ。
書帙しょちつの開くを　用もちゐず，
偏ひとへに宜よろし　酒樓に上のぼるに。
故人　京洛けいらくに滿つ，
何いづれの日か　復また同遊せん。